

オープンイノベーションをもたらす標準化について

岸上順一

NTTサイバーソリューション研究所

11/16/2009

情報通信審議会 情報通信政策部会

通信・放送の融合・連携環境における標準化政策に関する検討委員会(第3回)

標準化にあたって考慮すべきこと

- ✓ オープン標準の基本的な考え方
 - デファクト標準にあってもできる限り内外にオープンに開かれた環境で議論され、ユーザーにとって多様性と経済性、さらに継続性のあるソリューションを提供する
- ✓ 形成過程
 1. 具体的なサービス主体が存在するサービスに対するコアグループによる仕様の検討
 2. オープン標準化団体の仕様レビュー
 3. IPRポリシーの規定
 4. 公開と複数ベンダーによる製品提供
- ✓ 標準化に当たり指摘された点に関して

日本市場は国外の技術に対して閉鎖的であるか。独自仕様について。

 - 多くのネットワーク仕様、機器仕様などはデジュール標準をベース
 - ユーザー利点の最大化。必ずしもすべてがグローバル標準ベースとはならない
 - サービスにおいては、携帯、ブロードバンドなどの先端性を生かすことも重要。
 - 現在のサービスとの整合性
 - 例えば現在の放送仕様をできるだけ生かしたIPTV仕様
 - 操作の簡易性: 日本人の特性に合わせたデザイン
 - 現在のサービスからのマイグレーション
 - 仕様策定のプロセスでは多くの場合に外国メーカーにも呼びかけは行っている
 - グローバル標準との整合性の最大化
 - 新たな標準をできるだけ作らない。標準化のための標準を避ける。メリハリのある活動に限るべき。
 - 他のSDOの仕様を反映
- ✓ 標準化施策への期待
 - 日本からの標準の海外での啓蒙およびプレゼンス向上
 - デファクト標準のデジュール化支援施策

IPTV標準化の歴史

